

社会の謎を 解き明かそう。

国際交流学部 教授

森田 吉彦

MORITA YOSHIHIKO

略 歴

神戸市生まれ。京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了。
京都大学博士(人間・環境学)。

専門分野

政治学、国際政治学、東アジア国際史

研究活動

特に東アジアの国際政治とそこでの日本の在り方について、歴史や思想、あるいは国際秩序論の観点から考察しています。

紀元前の昔、第2次ポエニ戦争に敗れたカルタゴは、ローマ帝国によって武装解除され、ローマに従属し、保護されるだけの国となってしまいました。その後は平和と復興に専念し、やがてローマを脅かすほどの経済大国にまで蘇りますが、隣国からの執拗な嫌がらせをきっかけに、滅亡へと追い込まれていきます。住民は、みな殺されるか奴隷にされるかとなり、都市は焼き払われて、地上から消え失せました。

——第2次世界大戦に敗れた日本に、カルタゴと同じ運命をたどらせてはならない。少年の日に読んだカルタゴ滅亡の物語を胸に、焼け野原となった敗戦国・日本の生き残りのため知恵を振り絞ったのが、京都大学で国際政治学を教え、「現実主義」の論客として名をはせることになる高坂正堯でした。彼は、日本は東洋の島国ではなく、世界の海洋国家として生きるよう説きました。

私がいま取り組んでいるのは、高坂の思想と行動を歴史的、学問的に位置づけることです。

担当授業

政治学基礎、現代政治学理論、国際政治学、日本史

講義では、「諸価値の権威的配分」という政治学の観点から、物の見方の多様性を大切にして、受講生それぞれの意見を求めます。時事問題等で議論を交わすこともしばしばです。

学外での取り組みなど

現在、サントリー文化財団の研究助成「学問の未来を拓く」で、「国際政治における観念体系と戦略形成・政策選択のメカニズム」という共同研究の研究代表者を務めています。

PHP研究所刊行の月刊誌『Voice』などに、時折論説を発表しています。

主な著書

【単著】

- 『吉田松陰『孫子評註』を読む』(PHP研究所、2018年)
- 『評伝若泉敬』(文藝春秋、2011年) など

【共著】

- 中西輝政編『アジアをめぐる大国興亡史1902-1972』(PHP研究所、2020年)
- OKAMOTO Takashi, ed, *A World History of Suzerainty*(Toyo Bunko, 2019) など